

2013 年度「教養特別講義 2」について

小山 高正

「教養特別講義 2」は日本女子大学に入学した全学生が履修すべき必修科目として「教養特別講義 1」と並ぶ科目で、全学生の教養を高め、視野を広げ、卒業後に社会人として生きていくための力を与えることを目的とした重要な科目です。そもそも教養特別講義は、学問における真理の探求と人間形成とを不可分とする本学創立者成瀬校長の「実践倫理」を基としています。創立者が「実践倫理」で取り上げた内容は多岐にわたり、女子を「人として、婦人（女性）として、国民（社会人・国際人）として教育する」という建学精神が実践されました。そして「信念徹底」、「自発創生」、「共同奉仕」は創立者が晩年に述べた教育理念としての三綱領です。「教養特別講義 2」はこのような精神や理念を基盤としながら、本学学生が専門分野の学問研究に立ち向うにあたり、常に広い視野と倫理性に基づいた高い識見をもって、人類の未来に創造的に自己実現を果たすことができる人材を養成するとともに、現代を生きる女性のキャリアを十分に伸ばすことをとくに強調して、2009（平成 21）年度に再編されました。本年度もこれが継承されています。

講演者の選出は、「女性のこころとからだ」、「現代文化のなかの女性」、「女性と職業」、「家族と女性の生き方」、「女性と社会参加」、「女性と世界」の 6 つの分野に合わせて、前年度の教養特別講義 2 委員会が行うことになっています。今年度の講演者も、昨年度の学生委員と教養特別講義 2 委員、そして現代女性キャリア研究所が推薦する候補者の中から選出・交渉しました。毎年、現代女性キャリア研究所には、講師候補者の推薦をはじめ、課題図書を選定もしていただき、感謝しております。例年難航する講師候補者との交渉は、日本女子大学として行うことが必要であるという委員会の認識から、今年度から交渉の手始めについては学長がして下さることになりました。このことは実にありがたいことで、委員一同感謝しております。学生委員から推薦された講師も多く、医師、医療ジャーナリスト、ボランティア団体理事・理事長、先端研究に携わる女性研究員、女性キャリアに関わる大学教授、世界を駆け巡る戦場フォトジャーナリストなどの方々が来校下さることになっていますし、さらに国際的に活躍する太鼓演奏者や相撲部屋の女将さんも含まれています。学生の皆さんには、このような方々の講演を聴く機会を生かして多くを学んで欲しいと切に願っています。

学生時代、とくに学部時代は、頭が柔らかく何でも吸収できる時です。まずは多岐にわたる講演者の言葉に耳を澄まし、その中で自分のアンテナを幅広く張り巡らすよう努力していただきたい。創立者・成瀬仁蔵は、『女子教育』の中で「重きを普通教育におくべし」と述べています。普通教育とは今でいう教養教育のことです。「ただ、書物のように

知識を蓄えるのではなく、円満完備の人になるよう、聡明なる知力を備えなさい」と仰っていて、この教養特別講義2が目標とするところと一致しております。日本女子大学の卒業生は、教養特別講義2を通じて、女性としての強みを生かし、さらには、男女を超えた立場で物事を見通す力をつけて日本を超えて世界のリーダーとなり、人類全体のために頑張ってもらいたいと思います。

(こやま たかまさ 人間社会学部心理学科教授・教養特別講義2委員会委員長)